



平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 福島県 】

1 実践テーマ	【 I・IV・V 】
2 実施対象者	会津若松市立一箕小学校・小学4年・小学5年・小学6年 321名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（体育科 4年～6年・総合的な学習の時間 6年）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>1. オリンピアン山下航平選手の講話や実技により、東京オリンピック・パラリンピックの目的やオリンピックの目標達成に向かう姿勢を学び、今後の自分の生活において、強い意志や公平性などの価値を大切にしていこうとする態度を養う。</p> <p>2. 会津若松市はタイ王国のホストタウンであることから、タイ王国との相互交流を通して、文化や生活様式などの多様性の認め合い、タイ王国を招待するおもてなしの心を培いながら、東京オリンピック・パラリンピックへの興味や理解を深める。</p>
5 取組内容	<p>1. 三段跳びのオリンピック 山下航平選手の授業</p> <p>(1) 講演 陸上競技人生の「これまで」と「これから」についてのお話</p> <p>(2) 実技披露 山下選手の跳躍や走りなどの披露</p> <p>(3) ミニ陸上教室 ミニ陸上教室を通じて、陸上競技への興味・関心を高める。</p> <p>2. タイ・バンコクのアサンプション・カレッジとの交流学习 (テレビ会議システムによる)</p> <p>(1) 一箕小学校の発表 春夏秋冬の学校生活や会津若松市の紹介・金管楽器の演奏</p> <p>(2) アサンプション・カレッジの発表 タイ王国の礼儀や伝統的な舞踊の紹介・民族楽器の演奏</p> <p>(3) 質問タイム 始業時間などの学校生活に関係することや、住居環境などの市民生活に関係すること、環境問題などについて</p>

	<p>&lt;関連資料&gt;</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <p>山下選手の三段跳びの披露</p> <p>タイ王国の皆さんに向けての紹介</p> </div>
6 主な成果	<p>1. オリンピアン講話により、少年期からのスポーツに取り組む姿勢などを実感的に学ぶことができ、「なりたい自分を想像する」ことの大切さについて、子どもたちは理解することができた。</p> <p>また、オリンピックの実技披露やミニ陸上教室により、オリンピックの卓越した力に感動したり、陸上競技の魅力を感じたりすることができた。</p> <p>2. テレビ会議システムによるタイ王国の子どもたちとの交流を通じて、互いの文化や生活の情報交換をしながら、相互尊重及び国際理解を進めることができた。</p> <p>また、子どもたちが一箕小学校や会津若松市の紹介をしたことにより、子どもたちの郷土愛をさらに深め、タイ王国の選手を招待したいという気持ちも高めることができた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>1. 4年生から6年生までの約350名を対象としての学年毎の合計3時間での計画であったため、1単位時間の内容をポイントを絞ったものにしたり、体育館から校庭への移動がスムーズにできるようになったりなど、時間を有効に活用できるようにした。</p> <p>2. 海外とのテレビ会議システムの活用であったため、会津若松市教育委員会の情報担当者と連携し、ネットワークシステムの調整にはスコシステムズ合同会社様に協力をいただいて準備を進めた。</p>
8 主な課題等	<p>1. オリンピアンへの質問タイム等の時間を確保できれば、児童がより主体的に学び、さらにねらいにせまることができた。</p> <p>2. タイ王国側との日程調整やテレビ会議システムの調整に時間がかかったため、今後はスムーズな準備について検討していきたい。</p>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は、パラリンピアンを招き、苦しいことがあってもあきらめずに乗り越えようとする力や、多様性や公平性について考える機会を設けたり、パラリンピックへの理解を深めさせたりしたい。</li> </ul>